

















せていただきました。また、先日はDXロードマップという中に、ICTツールだけでなく、働き方や風土というところを道筋として記載させていただきました。

もう一つは、DXを継続して推進していけるデジタル環境を整備することです。こちらについては生成AIなど最新のサービスを利用できるICT基盤の構築をしました。また、今年度に入りますけれども、縦割り行政とよく言われていますけれども、縦割りではどうしても情報が囲い込まれたり、ノウハウが囲い込まれたりするという中で、全庁でこれらを共有して活用していけるDXツールであるキントーンを本格的に導入するということで進めております。頭の中から離れなかった四年後の姿というのは、何とかできたのではないかなと思っております。

また、就任二年目は地域行政も担当させていただくことになりました。かねてより、地域の幸せというのはどうやってつくっていくんだらうということで、官と民はやっぱり連携していかなきゃいけないなとずっと思っていたものですから、行政の立場でまちづくりを学んで、関わらせていただけたのは、本当に感謝申し上げます。そういう意味では、コモンをはじめ、新しいつながりのつくり方というのはちょっとずつ試せたのではないかなと思っております。

よく地方創生、要は固定化した地域を活性化するためには、よそ者、若者、バカ者が必要だと言われますけれども、DXみたいに大きく組織全体を変えるときも同じように必要じゃないかなと僕は思っていて、気持ちだけは若いんですが、若者以外の残りの二つに当てはまる私を迎え入れていただいた議員の皆さん、それから区の職員の皆様に本当に感謝申し上げます。

振り返りますと、日々常識と常識のぶつかり合いと。要は私の常識と区の常識のぶつかり合いの中で随分削られました。一方で、折々、やっぱりどんどん変化していく、チャレンジしていくということを感じることが最近特に感じるようになりました。そういう意味では、大きなたくさんの元気をいただけたと思っております。

今後につきましては、世田谷区の一区民として、区が目指す基本構想にあります持続可能な未来を確保し、あらゆる世代が安心して住み続けられる世田谷を共につくるという社会にさらに近づけるように祈っております。

少し名残惜しいですけれども、最後にここにいらっしゃる議員の皆様、区の職員の皆様をはじめとしまして、この四年間で多く御縁をいただきました多くの皆様に深く感謝を申し上げて挨拶を終えたいと思います。本当にありがとうございました。（拍手）

